

# KMD社のデジタル化による 新たな社会価値創造

世界中で行政のデジタル化に注目が集まる中、NECは2019年にデンマーク最大手のIT企業の1社であるKMD社を買収しました。社会保障や税務関連、警察や防衛など政府や地方の公的機関、金融機関や都市インフラ向けのソリューションに圧倒的な強みを持つKMD社。同社の優位性や、NECとの協業の状況、さらなる行政および社会のデジタル化に向けた今後の展望をKMD社の3名に語ってもらいました。



KMD  
Lead Digitalization Officer

Hans Jayatissa

ハンス

KMD  
Lead Sustainability Officer

Ditte Haugaard Clausen

ディット

KMD  
Head of AI and NLP (Natural Language Processing)

Malte Højmark-Bertelsen

マルテ

## Q. KMD社への入社理由を教えてください

### ハンス

私の行政デジタル化分野でのキャリアは前職も含め30年近くになります。前職では政府の複数の基幹システムの立ち上げに携わっており、行政向けの新技術導入に注力していました。

KMD社には、行政デジタル化においてより広範囲で貢献したいという思いが強くなっていったところに、タイミングよく声をかけてもらいました。私たちが提供するITシステムによって、社会保障をはじめとするあらゆる行政分野へのアクセスが改善していることを実感できていますし、KMD社の事業を通じて社会に貢献できていることをうれしく思います。

### マルテ

私のキャリアにおけるモチベーションは「技術による社会貢献」ですが、これを特に体現できるのがKMD社だと確信し入社を決めました。現在はAIを利用した行政向けソリューションの開発に携わっていますが、ITの力で行政業務を改善することで社会全体の最適化や人々のより良い暮らしづくりにも貢献できています。このように私たちが開発する技術やソフトを通して社会に大きな価値を提供でき、社会への貢献を直接肌で感じられることがKMD社の最大の魅力であり、私にとってのやりがいにもつながっています。

### ディット

KMD社が社会や国民との信頼関係を基盤にデンマークの行政デジタル化に貢献してきたこと、さらに、まだ社会一般では明確になっていない社会のグリーン化への道筋について、デジタル化によりどのように実現していくのかを自身の専門分野であるコミュニケーションを通じてサポートしていきたいと考えています。

## Q. デンマークが行政デジタル化の先進国となった背景と、KMD社の貢献について教えてください

### ハンス

デンマークがデジタル化を遂行できた要因は2つあると考えています。

1点目が行政と、当時国有企業であったKMD社を含むIT企業2社（現在は民営化）主導で取り組みを進めたことです。行政デジタル化は1968年の国民ID付与からスタートしましたが、その背景には人口の少なさゆえ、公務員も少なく人件費負担が増加し、行政業務が円滑に進められないという問題があり、課題解決にはITが必須だったのです。財務省が中心となり、国民の誰一人も取り残さないことを念頭に、半ば強制的ともいえる形で行政機関のデジタル化が推進されました。

2点目はディットさんが挙げてくれた、政府や公的機関への大きな信頼です。これは日本やドイツでも課題になっていることからわかるように、デジタル化を推進するうえで最も大きな障壁ともいえます。ただ高福祉高負担社会であるデンマークの税率はとても高いですが、それが公正に分配される前提があります。このような社会基盤があったからこそ、政府と国民の間に相互信頼が成り立ったのです。

### ディット

信頼に加えて、デンマークの教育水準の高さ、インターネットインフラの充実、デジタル社会の到来を見抜いた政治家がいたことも要因といえます。

デジタルが一般的ではない当時、KMD社には圧倒的な技術力と知見がありました。その強みを活かし、公的組織に対してデジタル化に向けた政策提言も積極的に行っていました。当社は現在でも大規模な業界団体に属しており、デジタル化を推進するうえで不可欠な生体認証技術についての助言も定期的に行っています。

### ハンス

業界からの提言だけでなく、行政側もデジタル関連法案の立案にあたっては私たちに意見を求めることが多いです。業界側からのフィードバックが法律に反映されていくのです。

KMD社はこのような政策提言に加え、国民ポータルサイトやデジタルメールボックスといったソリューションも提供してきました。現在は行政が引き継いでいますが、根幹のアイデアはデンマークのデジタル社会基盤を築くことを前提としてKMD社が考案しています。

システムの構築にあたっては、使いやすさを最重視しています。ポータルサイトは必要な情報に3クリック以内でアクセス

## NECのビジネスモデル

### 従業員座談会：KMD社のデジタル化による、新たな社会価値創造

できるほか、使用頻度の高いカテゴリから表示するような設計になっています。

最近では新型コロナウイルス感染症拡大を機に「MyHealth」というアプリの使いやすさを向上させました。アプリが国民IDと紐づいていることで、迅速なPCR検査結果の通知が可能となっています。短期間で国民全体がこのアプリを使えるようになる必要があり、KMD社は特に高齢者向けに使いやすさの改善をしました。

#### マルテ

デジタル化を推進するうえで最大の障壁となる個人情報保護も、透明性ある形で規定されています。例えば個人情報へのアクセスは、誰がどのような条件で可能かを法律で明文化していますし、誰が自分の個人情報へのアクセス権を持っているか、その理由も閲覧できます。何らかの事情で住所や個人情報を公開しないといった措置も可能です。このように個人情報を扱ううえでの配慮と適切な周知があったからこそ、障壁を打ち破りデジタル化を加速できたのだと思います。

今後のサービスの鍵を握るのは、ハンスさんからお話があった「使いやすさ」です。KMD社に求められているのは直感的に使いやすいソフトを作ること、デジタルソリューションの活用を拡大していくことであると認識しています。

#### Q. 今後の課題をどのように捉えていますか？

#### ハンス

次の課題はデジタルを基盤としたグリーン社会への移行です。電力需給の管理をはじめ、化石燃料からの脱却と同時にITを駆使して新たな社会を創っていく必要があります。この先50年で最も注力すべき領域であると考えています。また、公務員の人口が少ないという課題はいまだに解決されていませんので、このような分野はITの活用などによって今以上に自動化し、業務効率を上げていかなければなりません。

#### マルテ

例えば公的機関の業務には今もなお、多くの人が反復的かつ手作業で確認しなければならないものがあることも事実です。このような課題はKMD社の持つ様々な技術を活用することで、はるかに効率よく業務を進めることができるようになります。

#### ディット

ハンスさんがおっしゃった通り、次の課題は社会全体のグリーン移行支援です。KMD社は特に電力や水消費量の把握といった分野のデジタル化には強みを発揮できると自負しています。私たちはすでに一部の電気や水道メーターのデータを管理・分析し、使用量を最適化するためのソリューションも持ち合わせてい

ます。現行の法律ではこのサービスを適用できないといった障壁はありますが、すでに技術は確立されており、実際に10～15%使用量を削減できることが証明されていますので、サステナブルな社会の実現に向けて取り組みをさらに加速していきます。

#### ハンス

特にグリーン社会への移行を推進していくうえではNECとの協業による大きな効果が期待できます。NECはエネルギーマネジメントに必要とされる高度なセンサーやデジタルツインプラットフォーム、AIに関する強みがあり、そこにKMD社のソリューションやデータを組み合わせることでシナジーが生まれています。実際にグリーン化に大きく貢献できるAIやプラットフォームの開発にも成功しています。

#### Q. デジタル化促進によって、デンマークをどのような国にしていきたいですか？

#### ハンス

人々の生活の中にデジタルが自然に溶け込み、適時適切な判断で様々なものを効率化できるような社会が理想です。先ほどのグリーン社会への移行の文脈でいえば、ITが人の暮らしに寄り添うことで、水道や電気といった身近な資源の消費も意識せずとも容易に効率化できるようになり、社会全体の取り組み加速にもつながります。

#### ディット

人中心のスマート社会を作りたいです。自動化が可能なルーティンワークや単純作業はAIやロボットに任せて、私たちは新しいことの発想や、コミュニケーションなど人にしかできないことに専念する、このような分担ができると思います。

またデンマークをエネルギー調整力の高い社会、100%再生可能なエネルギーにより成り立つ国にしたいです。デンマークがその先駆者的な存在になっていけるようにKMD社のソリューションを展開していきたいです。

#### マルテ

2人と同意見です。あらゆる領域の課題解決に向けて、積極的に新技術を取り入れる柔軟な国であってほしいです。また行政をデータドリブンで運営していくことで、サステナビリティの面も含めて、より効果的かつ良質な結果を出していくことができます。KMD社にはデンマークがより良い社会になるための技術が豊富にあるので、それをもっとアピールしていきたいと思います。

#### Q. NECにはどのようなことを期待しますか？

#### ハンス

NECとKMD社は目指す社会の姿が一致していますので、KMD社の知見や製品にNECの研究開発力やグローバルネットワークを掛け合わせることで、他社を凌駕するようなサービスを生み出し提供していける、とても良いパートナーです。例えばKMD社の主力製品の1つであるWorkZoneは、各市場における規制などへのフレキシブルな対応が可能な生産性や業務プロセス管理のシステムで、NECとともにシンガポールや日本、オーストラリアのお客様にご提案しています。このように、多くの国でKMD製品の恩恵を受けられるように、連携を深めていきます。

#### ディット

私たちがこれまで心がけてきたように、行政や社会のデジタル化に関わっていくうえではNECとも相互信頼が必要です。NECが高く評価されているのは、優れた技術力だけでなく、これまで培ってきた信頼が企業理念にも埋め込まれているからだと思います。これはKMD社にとって素晴らしいことですし、ともにこの評価を継続できるように尽力していきたいです。

#### マルテ

NECとKMD社が協働することによって、より洗練されたデジタル化社会を実現できると思います。特にデータドリブンを実現するうえでは、NECの技術的見地からの助言が大きなプラス要因となります。この素晴らしいパートナーシップのもと、お互いにシナジーを生んでいくことで、斬新かつ有用なサービスを作っていきます。

